

桜蔭俳話会 平成二十四年 秋
第一〇七回通信俳句会 選句結果

(選句数 八句、特選には○をつける)

3点①ほほずきの赫さ取り込む八ヶ岳	則敏	3点	和菓子屋の盛られし団子十三夜	友子
10点③長き夜や目の前にある探しもの	溪水	1点	感嘆の声一斉の紅葉かな	幸枝
1点 心なしか淋しく見える秋のパラ	邦子	6点	真白なる菊供へたり毒婦の碑	のり子
1点 文明と一字違ひし文化の日	守	5点	病葉の落ちて色ある遊歩道	梅乃
3点 露ふむむ紫菊の息を聴く	幸枝		街広し展望台に秋の声	真三
1点 亡き母を恋えばこすもす揺れに揺れ	みさ		満喫す秋の味覚を故里に	邦子
4点 声途切れぬ少年野球天高し	秀一	10点②上弦の月天窓に治まれり		幸枝
1点 太き樹の銀杏紅葉の並びをり	真三	4点	マイナスの思考多しや秋の暮	ヤエ子
4点 ヴィーナスてふヨガ励みけり豊の秋	友子	5点	紅葉散る古民家の戸の電子キー	明美
6点①筆塚に風と寄り添ふ式部の実	幸子	11点	かはらけの吸ひ込まれゆく谷紅葉	友子
6点 刈田道防犯カーのついて来し	明美		病室の友に届けよ秋の風	邦子
4点①熊除けの鈴の音響く秋の山	ヤエ子	9点②あるだけの息吐ききりぬ天高し		安紀子
15点④名月につながる坂をのぼりけり	梅乃		飛行雲新雪富士向け二本行く	忠夫
1点 紅葉且つ散る旧白洲邸武相荘	幸	7点①芋煮会渾名で語る同級生		幸
2点 秋の蝶うわさ話の飛び交ひて	安紀子	5点	赤さびの線路おひて草紅葉	のり子
4点①雨冷えや仁王の足のふんばりて	のり子	3点	やわらかき紙に包まれ黒葡萄	みさ
1点 海渡り武者人形の菊花展	ツル子	5点①十六夜や少女に座席譲らるる		秀一
2点 新諸に似てる雲行く丹沢峰	忠夫	9点③指に巻く切符一枚秋をゆく		梅乃
	直子	4点	残照に色深まりし鶏頭花	ツル子
1点①ニュース読む背後に活けし吾亦紅	ツル子	3点	武者返し色なき風を追ひ返す	則敏
3点 満ち潮の川あかね色秋気澄む	ヤエ子	9点	神の手のなせる点描紅葉山	守
3点 虫時雨鬼も浄土と思うらん	みさ		鉢物に化粧ほどこし秋送る	溪水
1点 靈妙な静けさ涼し一の宮	則敏	1点	夕暮の訪づれ早く秋深し	真三
5点①コスモスの撫げや幼き地藏尊	安紀子	5点	秋の陽の清清しきは葉なり	直子
7点②秋日和墨の乾きの速きこと	幸子	4点①水鏡光まとひし紅葉映ゆ		幸子
2点①峡の霧晴れて発電揚水路	守			
	忠夫			
2点 きぬかつぎ熱々ほおぼる湯気の中	明美			
3点 主権揺らぐや秋冷のシーレーン	秀一			
6点 わが町の道筋ごとに金木犀	直子			
1点 名月やちよつとちよつとと妻の指	幸			
4点 立冬に歩く道にはひつつき虫	幸			
4点 山幾重見下ろす谷の紅葉燃ゆ	幸			

(特選○無しの方一人おられましたこと付記いたします)

得点順

十五点

④名月につながる坂をのぼりけり

小川名梅乃

①水鏡光まとひし紅葉映ゆ

辻 幸子

十一点

かはらけの吸ひ込まれゆく谷紅葉

藤本 友子

声途切れぬ少年野球天高し
ヴィーナスてふヨガ励みけり豊の秋

佐渡谷秀一
藤本 友子

十点

③長き夜や目の前にある探しもの

瀬戸 溪水

山幾重見下ろす谷の紅葉燃ゆ

稲葉 幸

マイナスの思考多しや秋の暮

岩野ヤエ子

②上弦の月天窓に治まれり

桜井 幸枝

荒木ツル子

九点

③指に巻く切符一枚秋をゆく

小川名梅乃

(以下省略)

②あるだけの息吐ききりぬ天高し

藤崎安紀子

神の手のなせる点描紅葉山

増田 守

七点

②秋日和墨の乾きの速きこと

辻 幸子

①芋煮会渾名で語る同級生

稲葉 幸

六点

①筆塚に風と寄り添ふ式部の実

辻 幸子

苜田道防犯カーのついて来し

古野 明美

名月やちよつとちよつとと妻の指

瀬戸 溪水

真白なる菊供へたり毒婦の碑

柏尾のり子

五点

①コスモスの撫づや幼き地藏尊

藤崎安紀子

①十六夜や少女に座席譲らるる

佐渡谷秀一

病葉の落ちて色ある遊歩道

小川名梅乃

紅葉散る古民家の戸の電子キー

古野 明美

赤さびの線路おひて草紅葉

柏尾のり子

秋の陽の清清しさは葉なり

服部 直子

四点

①熊除けの鈴の音響く秋の山

岩野ヤエ子

①雨冷えや仁王の足のふんばりて

柏尾のり子